

学校「ビオトープ」づくりを通して

ふるさとの大切さを…

稲築東小学校 校長 浅海 泰司

今年度、稲築東小学校の中庭に学校ビオトープを製作している。「ビオトープ」とは、自然の生き物が人工的に作った環境に住めるようにした池のようなものをいう。ここに、稲築の川に棲む生き物などが生活できるようにしている。

製作に当たっては、「東っ子ビオトーププロジェクト」と銘打ち、ビオトープの製作活動やその活用を通して、子どもたちの自主性を養うことをねらう。さらには、身近な自然の生き物に興味・関心を持ち、生命の大切さや自然を愛する心情を養うことも目的としている。

まずは、「こんな中庭になるといいなあ」をテーマにビオトープのデザインやアイデアをすべての子どもたちから募集した。そして、それをもとに完成予想図を作り上げた。

実際の作業は、昼休みの時間を活用した。子どもたちは主体的に穴掘りから始めていった。日ごろ使いたないスコップで額に汗しながら一生懸命穴を掘る姿は、とても生き生きとしていた。その後、重機による掘削作業やセメント打ちなどの本格的な作業を行う。

その際、保護者や地域の方に協力をいただき、夏休みの終わりにはほぼ完成した。

現在、子どもたちが地域の川などから捕りてきた魚やザリガニ・ヤゴなどがビオトープに生息する。身近な生き物とふれあいながらふるさとの良さを感じ、大切にすることを育っていつてくれることを願い、日々ビオトープを眺めている。

